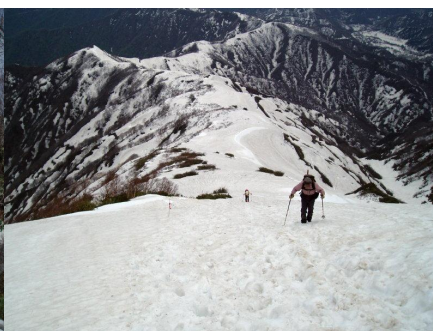


# 越後駒ヶ岳山行記録



ニセ小倉の登り



前駒の登り



八海山をバックに

目的地	駒ヶ岳 (小倉尾根)	期 日	平成21年5月6日 (祝)・曇時々微弱雨
山人	笠原正雄、伴場ちづ子、清水良次、増田	特 記	残雪期山行：5年目の駒ヶ岳、今年は駒ノ湯から

地点名	時刻	記 事
駒ノ湯登山口発	午前 6:30	道の駅深雪の里で3人と合流、一台で駒ノ湯に。ポツリ雨を受けたが心配は無い。ポストで登山届を記入。単独男性2人とほぼ同時に歩き出す。
薄日が差す	6:45	落ち葉の登り、登路脇の椿が盛りだ。進めばイワウチワ、イワカガミ。
休 む	7:50~8:00	10分前に栗ノ木頭を通過し、広い所で休む。風も無く気温も丁度良い。但し、虫が寄って来る。少し食べて歩き出す。
ニセ小倉手前	8:20	雪が出て来て、サングラスを掛ける。雲は多いもののまだらに青空がのぞく。
鎖 場	8:35	最初の一ヶ所を上げれば雪の登りとなる。一株シャクナゲが咲く。
ニセ小倉ピーク	8:50	殆んど雪の登りで、僅かに夏道を登る。このあたりから風が冷たくなって来た。
小 倉 山	9:10~9:15	ニセ小倉から少し下ると夏道を歩く。登りは雪となるが、ニセ小倉の登りより緩い。喬木帯を抜け出し、雪原に出る。下山で迷わないように赤布の位置をしっかりと頭にとどめて置く。昨夜ここで幕営の男女4人隊が下山して行く。のち、長岡からの男女が上って来た。山容全てが見える。道行山ルートでの人影は見えないが、トラバースは雪が少なくなっていて出来ないようだ。ベストを着る。
平 坦 地	9:40	この手前一ヶ所だけ夏道に上がる。風寒くベストの下にシャツを重ね着する。
百 草 池	9:55	標柱が頭を出している。長岡の女がグングン追い越して行く。男が後を追う。この後、登りにかかると暑くなり今度はベストを脱ぐ。荒沢岳が良く見える。
前 駒 の 登 り	10:10	急登を登る。足元の雪は軟らかく難は無い。前方が黒い雲となり、小粒雨が当たって来たが、短時間だった。朝の男の一人が下山して来た。
前 駒 稜 線	10:25	稜線に上がって右折する。小屋下の岩場登り手前の尾根は、夏道を離れ、左の雪斜面を巻いている。Sが元気良く先行して行く。
駒ノ小屋前広場	10:45~10:55	長岡男女が先に到着していた。広場は一部地面が出ていた。小屋周囲の雪は数10m程度。遅れている2人を待つ。ザックを置いて揃って山頂へ。朝のもう1人が下りて来た。雪が少なくオツルミズ沢の直登は出来ず、ほぼ夏道通りに上る。
駒ヶ岳山頂	11:10~11:15	長岡男から八海山をバックに全員写真を撮って貰う。オカメノゾキは鞍部までくっきりと見えた。遠くは霞んでいる。その霞の具合でやや同定が難しい。しかし、裏三山、下津川・巻機山方面は良く分かる。魚沼方向からガスが上がって来た。陽の当たり具合で守門・浅草が光って見えた。下山する。
駒ノ小屋	11:25~12:15	小屋に入り、板の間に腰を降ろす。土間通路に板を渡して快適ランチタイムを過ごす。残雪期5年目にして始めて小屋の中で過ごした。
下 山		小屋を出ると山頂はガスで覆われていた。単独男が下りて来た。夏道下山口は土が出ていた。降りてみたがすぐに雪となり、やはり登ったトレースに渡って下る。今度は尾根の夏道を進めるところまで下った。
百 草 池	12:35	微かに当たって来たが、心配ない。
小 倉 山	午後 1:00	下りは速い。ニセ小倉の下り手前で雪上を右に下らなければならぬ所を直進した。道があると思って藪を漕いだが違っていた。元に戻って復帰する。
鎖場を終える	1:25	マンサクが残る。この後は夏道で危ない場所はない。残雪と新緑を眺める。
栗ノ木頭	2:15	ベストを脱ぐ。やはりこのあたり虫がうるさい。この後Bが赤コゴミを発見、採取。山菜モードになりかけた。乾いた落葉を、音をたてながら下る。
駒ノ湯登山口着	2:55	長岡男女の山菜袋が大きい。広神「薬師の湯」入浴後3人と別れ帰宅。

天候が懸念されたが、雨となってもそれほどではないだろうと思い入山した。晴れならばなお良いのだが、微弱雨程度はむしろ暑くなく快適に歩けるともいえる。そのせいか、予想よりも短い時間で上下山出来た。  
 去年は誘いがあって3月30日銀山平からだったので、今年は駒ノ湯からの年である。残雪期終盤山としてこの山を恒例としている。最初の年は5月21日だったが、今年の雪はその時よりも少なく、今までで一番少なかった。  
 清水さんは70歳、しかし元気だ。大型連休中、皆さん3人と共に3つの山を歩き、楽しく満足の日々であった。